

英国研究成果リポジトリのための
名称典拠サービス案に関連する最新動向の評価

JISC 名称プロジェクトのために作成

Alan Danskin, Anne Dixon, Michael Docherty, Amanda Hill,
Richard Moore

2007 年 9 月～2008 年 6 月

目次

はじめに	4
国際標準	5
典拠データの機能要件 (FRAD)	5
団体、個人、家に関する記録史料典拠レコードのための国際標準 (ISAAR-CPF)	7
国際標準創作者名 (創作者) 識別子	9
MARC 関連の標準	11
典拠データ用 MARC 21 フォーマット	11
MARCXML	13
メタデータ典拠記述スキーマ (MADS)	15
図書館システムおよび図書館由来のシステム	16
DAREnet	16
デジタル著者識別 (DAI)	16
名称典拠協カプログラム (NACO)	18
オーストラリア国立図書館	20
ビープル・オーストラリア	20
ニュージーランド電子テキストセンター	22
実体典拠ツールセット (EATS)	22
OCLC	23
WorldCat Identities	23
仮想的国際典拠ファイル (VIAF)	25
IraLIS	26
国際著者レジストリ: 科学者識別リンク	26
ONESAC	27
ONE 共有典拠コントロール	27
RePEc	28
RePEc 著者サービス	28
商用システム	30
エルゼビア	30
Scopus 著者 ID	30
ProQuest	31
ScholarUniverse	31
Thomson-ISI	32
Web of Knowledge - 著者識別システム (DAIS)	32
ResearcherID	32
その他の関連する活動	35
Eprints	35
ScientificCommons	36
英国国立文書館	38
National Register of Archives (名称典拠ファイル)	38

データ情報源候補	40
EthOS	40
Je-S	41
UK PubMed Central	43
助成金被交付者データベース	43
UK PubMed Central データ	43
Zetoc	44

はじめに

本文書は、英国の研究成果リポジトリで使用される名称典拠サービスの要件を策定する作業の予備調査として作成された。

この分野における既存の標準やシステムを、特にそのサービスへの妥当性に照らして分析してまとめた。その調査範囲は、NACO プログラムで作成されるような従来からある図書館典拠ファイルから、オランダ DAREnet のデジタル著者識別機能のようなりポジトリ指向の最近のシステムにまで及んでいる。また、名称典拠サービスの基礎を形成するデータ情報源となりうるものもいくつか選んで記載した。

プロジェクトに関する質問の回答に時間を割いていただいた各システムの管理者の方々に感謝の意を表します。読者の中でここに取り上げられていないサービスの責任者の方がいらしたら、どうかご連絡ください。本文書に追加させていただきます。

バージョン履歴

2007年10月1日 名称プロジェクトの Web サイトで公開
2007年11月12日 IraLIS に関する情報を更新
2008年2月12日 ONESAC の詳細情報を更新
2008年2月15日 ResearcherID を追加
2008年2月19日 RePEc 著者サービスを追加
2008年3月18日 ScholarUniverse を追加
2008年6月17日 ニュージーランド電子テキストセンターを追加
2008年6月26日 ScientificCommons を追加

典拠データの機能要件 (FRAD)

タイプ

あらゆるタイプの典拠データを対象とする概念モデル。最終草案を準備中。

目的

概念モデルは次の目的で設計された。

- ・ 典拠レコードに記録されるデータをレコードの利用者のニーズに結びつけるため、明確に定義され、構造化された準拠枠を提供する。
- ・ 図書館界の内外を問わない典拠データの国際的な共有と利用の可能性に関する評価を支援する。

方法

FRADは典拠レコードの機能要件および典拠番号の前編であり、FRBR (書誌レコードの機能要件) モデルを拡張・発展させたものである。検討は図書館界に限られているが、他の分野でも役立つと思われる。

FRADはFRBRと同じ実体関連分析技法を使って開発された。この技法は以下の目的で採用された。

1. ある特定の分野における情報の利用者が関心を持つ重要なオブジェクト (実体) を識別する。これら実体の各々是一群のデータのフォーカルポイントとして機能する。
2. あるタイプの実体と別のタイプの実体との関連を図式化する。
3. 各実体の一義的な特徴、すなわち属性を識別する。
4. 実体のインスタンスの間に存在する可能性のある関連を図式化する。

FRBRモデルの開発者は、個人と団体をこのモデルで設定される他の実体と関連付けられる別個の実体として定義することに大きな利点があると考えた。名称を属性ではなく実体として扱うというFRBRの決定は、この典拠データの世界モデルにも引き継がれている。

責任

典拠レコードの機能要件および典拠番号 (FRANAR) に関する作業部会は、1999年4月に[IFLA書誌コントロール部会](#)および[IFLA国際書誌コントロール・国際MARCプログラム \(UBCIM\)](#)により設置された。2003年のUBCIMプログラムの終了に伴って、[書誌標準に関するIFLA-CDNL \(国際図書館連盟 - 国立図書館長会議\) 同盟 \(ICABS\)](#) が、連絡窓口として活動する英国

図書館と共に、FRANAR作業部会の共同責任者を引き継いだ。

作業部会には以下が委託されている。

- ・ 典拠レコードの機能要件を定義すること。
- ・ 国際標準典拠データ番号の実現可能性を検討すること。
- ・ 典拠ファイルに関心を持つ他の団体との IFLA 側の公式連絡窓口となり、共同作業を行うこと。

参考資料

典拠データの機能要件：概念モデル；典拠レコードに関する機能要件と典拠番号（FRANAR）に関する IFLA 作業部会草稿。2007-04-01

<http://www.ifla.org/VII/d4/wg-franar.htm>

団体、個人、家に関する記録史料典拠レコードのための国際標準
(ISAAR(CPF): International Standard for Archival Authority Records for Corporate Bodies, Persons and Families)

タイプ

ISAAR-CPF は国際公文書館会議 (ICA: International Council on Archives) により策定・管理されている標準である。2003 年に ICA に採択され、2004 年に第 2 版が出版された。本標準が策定されたのは、記録史料の作成者やその役割、他の組織との関係を記述する際のアーキビストのニーズに既存の名称典拠標準が合わないと感じていたためであった。

詳細情報

ISAAR-CPF で利用可能な情報要素を以下に示した。4 つの必須要素は太字で示してある。

識別エリア

- ・ **実体のタイプ**
- ・ **名称の典拠形**
- ・ 名称の並列形
- ・ 他の規則による名称の標準形
- ・ 名称のその他の形
- ・ 団体の識別子

記述エリア

- ・ **存在年月日**
- ・ 履歴
- ・ 場所
- ・ 法的地位
- ・ 機能、職業および活動範囲
- ・ 指令書/典拠の情報源
- ・ 内部機構/家系
- ・ 一般コンテキスト

関連エリア

- ・ 関連する団体、個人、家の名称/識別子
- ・ 関連の種類
- ・ 関連の記述
- ・ 関連のあった年月日

コントロールエリア

- ・ **典拠レコード識別子**
- ・ 機関識別子

- ・ 規則および規約
- ・ 状態
- ・ 詳細レベル
- ・ 作成、改訂または削除日付
- ・ 言語および文字
- ・ 出典
- ・ 保守管理注記

団体、個人、家と記録史料およびその他の資料の関連付け

- ・ 関連資料の識別子およびタイトル
- ・ 関連資料のタイプ
- ・ 関連性の内容
- ・ 関連資料および関連性に関する日付

注記

ISAAR (CPF) は、比較的新しい標準であるのでまだ広く利用されていない。対応する XML 交換フォーマットである EAC (Encoded Archival Context) が開発されているが、現在のところベータ版であり、フォーマットの大幅な改訂が予想される。

参考資料

ISAAR (CPF): 団体、個人、家に関する記録史料典拠レコードのための国際標準、第 2 版。<http://www.ica.org/en/node/30230>

EAC Webページ: <http://www.iath.virginia.edu/eac/>

ISAAR (CPF) と EAC のクロスワーク

<http://jefferson.village.virginia.edu/eac/documentation/ISAAR2EACbeta.html>

国際標準創作者名（創作者）識別子

このプロジェクトの記号表示は 2007 年 5 月に ISPI (International Standard Party Identifier) から ISNI (International Standard Name (Party) Identifier) に変更された。このプロジェクトは ISO Project 22729 である。

タイプ

草案状態の標準。現在、作業草案段階であり、2007 年 12 月に委員会草案を提出することをめざしている。

目的

ISNI は、音楽や AV、図書、出版などのメディアコンテンツ産業における一連の創作、生産管理、流通に関わる団体の公的同一性 (Public Identity) を明確に識別することを可能にするものである。

方法

ISNI/ISPI のビジネスモデル、構造、メタデータは依然として作業部会における議論の対象である。主要な合意原則は次のとおりである。

- ・ 公的同一性は、特定の実在を著者や作曲家などとして表現するためのラベルとして名称を意図的に使用することを含んでいる。ある著者が 2 つのペンネームを使用している場合、その人は 2 つの公的同一性を持つことになる。ある著者の名前が作品により異なる形で現れるが、異なる公的同一性を表現する意図がない場合は、公的同一性は唯 1 つ存在するだけである。
- ・ ISNI システムは複数のドメインを通じて公的同一性を一意に識別しなければならない。
- ・ この目的を達成するためにシステムのアーキテクチャは ISNI 登録機関により定義されるべきである。
- ・ ISNI 標準は公的同一性のあいまい性を除去するために一連の必須メタデータ要素を提案する予定である。

ISNI は欧州連合が助成を行った *Interparty* プロジェクトの作業に基づいている。

範囲

創作の様々な分野を通じて人名や団体名の相互運用性を管理すること。

責任

国際標準化機構/情報とドキュメンテーション専門委員会 (ISO/TC46)。
情報資源の識別と記述に関する分科会 (SC9)。
国際標準創作者識別子に関する作業部会 (WG6)。

参考資料

ISNIのWebサイト: <http://www.collectionscanada.ca/iso/tc46sc9/27729.htm>

InterParty: <http://213.253.134.7/interparty/index.asp>

MARC 関連の標準

典拠データ用 MARC 21 フォーマット

タイプ

交換用フォーマット/スキーマ。

目的

典拠データ用 MARC 21 フォーマットは、MARC レコードにおいてアクセスポイントとして使用されるべき名称および件名の典拠形、典拠形への参照として使用されるべきこれらの名称、件名、細目の様々な形、およびこれらの形相互の関係に関する情報を搬送できるように設計されている。

典拠フォーマットは名目上は交換用フォーマットであるが、他の MARC フォーマット同様、入力用や格納用として広く使用されている。

方法

MARC21 は *ISO2709 情報およびドキュメント - 情報交換用フォーマット (ANSI Z39.2)* の一実装である。MARCXML は、典拠データ用 MARC21 フォーマットの情報損失を伴わない表現であり、MADSはその情報損失を伴う表現である。

文字セット

名目上、MARC21 は 2 つの文字セット、すなわち、MARC-8 と呼ばれている 8 ビットエンコーディングと UTF-8 エンコーディングを使用した UNICODE/UCS をサポートする。

範囲

MARC は 1960 年代に開発が始まり、図書館で広く使用されている。米国、カナダ、英国においては国家的フォーマットの座を得ている。MARC21 はいくつかの言語に翻訳されており、英語圏の国々では広く使用されている。ドイツとオーストリアでは現在、MAB2 (*Maschinelles Austauschformat für Bibliotheken*) を MARC21 に置き換える計画をしている。MARC 標準は図書館界以外では支持されていない。

典拠用 MARC21 フォーマットは、名称、タイトル、件名の典拠コントロールをサポートする。標目の典拠形、変異形、関連形、並行形、代替文字形を表現することができる。注記フィールドにより判断の正当性および文書化をサポートする。

責任

MARC21 の策定は国際的な取り組みである。利用者は次の 3 つの窓口を通じてこのフォーマットに対して意見を述べることができる。

- ・ MARC フォーラム。米国議会図書館が運営しているメーリングリスト。
- ・ カナダ、英国、米国の MARC 国内委員会。
- ・ 米国議会図書館のネットワーク開発および MARC 標準化室へ直接。

体制は複雑であるが、保守管理プロセスは確立しており公開されている。変更提案は半年に 1 回開かれる MARC 諮問委員会で評価・承認される。複雑な問題や戦略的な問題は、まず報告書として明らかにされる場合もある。

参考資料

MARC21 のホームページ: <http://www.loc.gov/marc>

MARC21 レコード構造、文字セット、および交換媒体に関する仕様書:
<http://www.loc.gov/marc/specifications/>

典拠データ用 MARC 21 フォーマット:
<http://www.loc.gov/marc/authority/ecadhome.html>

MARCXML

タイプ

MARCXML はフレームワークおよびスキーマである。

目的

MARCXML フレームワークは、利用者が各自のニーズに合った方法で MARC データを扱えるように柔軟性と拡張性を与えることを目的としている。このフレームワークは、米国議会図書館で開発・保守管理されているスキーマやスタイルシート、ソフトウェアツールなど数多くの要素を含んでいる。

MARCXML フレームワークの中心となるものは、MARC データを収容する単純な XML スキーマである。この基本となるスキーマ出力は、完全な MARC レコードが必要な場所で使用したり、MARC データレコードをさらにダブリンコアなどへ変換するための「乗り物」の機能を果たしたり、検証などの処理をしたりすることができる。MARC21 の些細な変更を反映して MARCXML スキーマを変更する必要はない。このスキーマは MARC のセマンティクスを保持している。

方法

MARC レコードの基本的なデータのすべては変換され、XML で表現される。フィールド長やディレクトリエントリにおけるフィールドデータの開始点などの MARC 構造化要素は XML レコードでは不要である。XML 環境では不要なリーダー位置のデータはプレースホルダとして保持されるか、空白が置かれる。

MARC (2709) からの損失のない変換の結果として、MARCXML レコードの情報は、データを損失することなく MARC (2709) レコードを再現することができる。また、MARC (2709) レコードは、データを損失することなく MARCXML レコードから作成することができる。

このスキーマに対する検証はソフトウェアツールを使って実行される。スキーマとは独立したこのソフトウェアは、3つのレベルの検証を提供する。

- ・ MARCXML スキーマに従った基本的な XML 検証
- ・ MARC21 タグ付け（フィールドおよびサブフィールド）の検証
- ・ コード値や日付、時間など MARC レコード内容の検証

範囲

MARCXML は、典拠フォーマットを含むすべての MARC フォーマットをカバーする。MARCXML は次の用途に使用できる可能性がある。

- ・ 完全な MARC レコードの XML 形式による表現
- ・ [METS](#) (Metadata Encoding and Transmission Standard) の拡張スキーマ
- ・ OAI ハーベスト用のメタデータの表現
- ・ XML シンタックスによるオリジナル情報資源の記述
- ・ 電子情報資源としてパッケージ化される XML 形式のメタデータ

責任

MARCXML は米国議会図書館のネットワーク開発および MARC 標準化室で開発・保守管理されている。

参考資料

<http://www.loc.gov/standards/marcxml>

メタデータ典拠記述スキーマ (MADS: Metadata Authority Description Schema)

タイプ

スキーマ。

目的

MADS は、エージェント（人、組織）、出来事、用語（トピックス、地理、ジャンルなど）に関するメタデータの提供に使用される典拠要素セット用の XML スキーマである。MADS は、メタデータオブジェクト記述スキーマ (MODS: Metadata Object Description Schema) の姉妹編として作成された。

方法

MADS は、MARC21 をサポートしていない環境で MARC 典拠データを使用可能にするための XML によるラッパーである。各レコードは MADS 要素 (<mads></mads>) に入れられ、MADS レコード群は MADS コレクション要素 (<madsCollection></madsCollection>) に入れられる。

MADS レコードは、典拠要素、関連要素、変異要素の 1 つ以上を含む。ただし、典拠要素は必須である。関連要素と変異要素は任意の数持つことができる。MADS 仕様の詳細は、<http://www.loc.gov/standards/mads/mads-doc.html> で見ることができる。

範囲

MADS は典拠データ用 MARC21 フォーマットからの損失を伴う変換である。MADS は典拠用 MARC21 フォーマットには存在しない要素を若干含んでいる。

責任

MADS は米国議会図書館のネットワーク開発および MARC 標準化室で開発・保守管理されている。

参考資料

MADS ホームページ: <http://www.loc.gov/standards/mads/>

図書館システムおよび図書館由来のシステム

DAREnet

デジタル著者識別 (DAI: Digital Author Identification)

タイプ

DAI プロジェクトの目的は、オランダ国内のすべての現役研究者にユニークな識別番号を与えることである。また、協力機関で使用されている図書館管理システムと研究情報管理システム (METIS) の 2 つのシステムで利用・更新ができる名称典拠ファイルの構築も目的の 1 つである。

目的

既存の管理システムを使って、研究者および研究グループに関する情報を彼らが発表した研究成果に確実にリンクすること。

方法

オランダ国内のすべての研究者には、論文発表の有無に関わらず、ユニークな識別番号が与えられる。この番号は、図書館管理システムにおける研究者の名称典拠レコードに追加される。学位論文の著者はオランダにおける分担目録作業の中で既に名称典拠ファイルが作成されていると思われるので、図書館システムには多くのオランダ人研究者の基本情報があらかじめ存在していると思われる。そして、(基本的な MARC 典拠ファイルの上に)METIS システムにある研究者の名前とその所属機関や部局の情報を含む新たな層の情報が追加されることになる。

METIS は、研究者、助成金、研究グループ、機関、研究成果に関する情報を保守管理する管理システムである。このシステムは 1993 年から存在し(現在も開発が続けられており)、オランダ国内の 13 のすべての大学と教育文化省などの国立機関や助成機関で使用されている。

DAI プロジェクトにより、オランダ国内の 4 万人のすべての研究者にユニークな番号が与えられることになる。これにより、DAREnet を通じてアクセス可能なリポジトリに保存されているデジタルオブジェクトへのアクセスが改善されると思われる。その数は 12 万以上である。

名称典拠レコードと DAI 番号は、図書館職員が図書館管理システムを使って、管理職員が METIS システムを使って、各々作成することができる。2 つのシステムで作成されたレコードは同期される。将来の改良点には、研究者が自分の名称典拠ファイルの情報を自ら更新できるようにすることが含まれている。

責任

DAI はオランダの DARE プログラム (Digital Academic Repositories) の一部である。これはオランダの研究団体と大学の共同プログラムであり、その目的はオランダの大学のための共用リポジトリ基盤を構築することであった。プログラムは 2003 年から 2006 年まで実施された。現在、DAREnet サイトは KNAW (オランダ王立芸術科学アカデミー) が責任を負っている。

参考文献

システムの概要:

http://dai-uitrol.ub.rug.nl/logboek/FILES/61/DAI_UKSG_20070417_final.doc

METISの概要: <http://metis.hosting.kun.nl/metis/default.cfm?i=aboutmetis>

名称典拠協カプログラム (NACO: Name Authorities Co-Operative)

タイプ

データソースおよびサービス。

目的

NACO は、共同目録プログラム (PCC: Program for Cooperative Cataloguing) の名称典拠プログラムである。このプログラムを通じて、参加機関は LC/NACO 典拠ファイルに名称や、場合によっては、名称/タイトル、統一タイトル、シリーズの典拠レコードを提供する。このファイルは米国議会図書館 (LC) が保守管理しており、USNAF あるいは NAF としても知られている。このファイルは英語圏の目録業界では名称標目に関する国際的なデファクトスタンダードとなっており、おおよそ 700 万件の典拠レコードを持ち、1 年あたり約 25 万レコードの割合で増加している。

方法

個々の機関が NACO に参加するか、図書館グループが共同で「作成プロジェクト」を形成して、コーディネーターを通じてレコードを提供する。現在、おおよそ 510 の参加機関が存在する。LC/NACO ファイルの整合性を保つために、NACO 参加機関は典拠レコードの作成や修正の際に共通の標準およびガイドラインに従うことに同意する。使用されている標準は、AACR2 (英米目録規則、第 2 版改訂版)、MARC21 および LCRI (議会図書館適用細則) である。これらの標準とガイドラインに関するさらなる情報は、<http://www.loc.gov/catdir/pcc/naco/nacopara.html> で見ることができる。

典拠レコードは OCLC (Online Computer Library Center) を通じて、または、英国図書館 (BL) から直接提供される。新規作成および変更された典拠レコードを含む提供ファイルは、LC により毎日 FTP を通じて回収される。OCLC と BL は毎朝、前日に LC システムで作成、更新、ロード、削除されたすべてのレコードを含む配布ファイルを手りする。LC ファイルはマスターファイルである。英国図書館と OCLC の両ノードは相互依存ファイルであり、Z39.50 アクセスを通じて互いの版を見ることができる。

責任

政策委員会が NACO を含む PCC 全体の管理を指導する責任を負っている。委員会には 4 つの常任機関: 英国図書館、米国議会図書館、カナダ国立図書館・文書館、OCLC と PCC 会員により選出される 8 名の輪番制委員が存在する。5 名の常任委員からなる運営委員会は PCC 会員申請の承認、プログラムの戦略的計画プロセスの指導、資源の収集・管理を行う。全体的な PCC の管理体制は、<http://www.loc.gov/catdir/pcc/2001pcc.html> で見ることができる。

スキーマ

MARC 21 交換フォーマット、または MARCXML。

文字セット

MARC-8。

現在、NACO 典拠データの交換はローマ字と限定的な文字レパートリに制限されている。NACO ノードは UTF-8 文字エンコーディングを使った UCS/UNICODE による交換に移行する計画をしている。ローカルシステムが開発されるまでは、何らかの文字レパートリ制限が続くものと予想される。

利用可能性

名称典拠ファイルは議会図書館目録配布サービスから入手できる。NACO ノードとして英国図書館もファイルのコピーを持っている。

サイズ

遡及期間は 1977-2006 年。665 万レコード。ファイルサイズは 3,132MB。平均レコード長は 471 バイト。

2007 年の登録件数は約 45 万レコードで、内、新規レコードが 25 万件。

参考資料

PCCに関する一般的な情報は、<http://www.loc.gov/catdir/pcc/2001pcc.html> で見ることができる。

NACO固有の情報は、<http://www.loc.gov/catdir/pcc/naco/nacopara.html> で見ることができる。

NACOの FTP処理に関する情報は、<http://www.loc.gov/catdir/pcc/naco/nodes.html> で見ることができる。

米国議会図書館目録配布サービスの MARC 製品に関する情報は、<http://www.loc.gov/cds/mds.html#tocmds> で見ることができる。

オーストラリア国立図書館

ピープル・オーストラリア (People Australia)

タイプ

著名なオーストラリア人に関する情報を Web リソースとするための既存のオーストラリア名称典拠ファイルの再開発。

目的

ピープル・オーストラリアの目的は、オーストラリア名称典拠ファイルの内容を Web 上で利用可能とし、さらに、その内容をオーストラリア全国書誌データベースだけでなく他の情報資源に見られる情報にもリンク付けることである。

方法

オーストラリア名称典拠ファイルのデータから独立したリポジトリが作成される。このリポジトリは協力機関が提供するサービスへのインターフェースを持ち、これにより、様々なプロトコルを通じてデータへのアクセスを提供することになる。ピープル・オーストラリア・プロジェクトは、約 12 万件の個人名と 9 万件の団体名を持つオーストラリア名称典拠ファイルのデータを高度化するとと思われる。

ピープル・オーストラリア・サービスで検索することにより、システムの利用者には他のサービスにある関連資料へのリンクを持つ各個人や組織のディレクトリページが提供される。

ピープル・オーストラリアは、関連するミュージック・オーストラリア・サービスのために開発された新しい名称データフォーマット MAPS (Metadata for Australian People Schema) を使用している。その理由は、既存の標準が基本的過ぎる、または複雑すぎると考えられたためである。代替となる MADS または EAC の使用を検討する作業もピープル・オーストラリア・サービスの実現可能性の調査で計画されていた。

注記

ピープル・オーストラリアのプロジェクトマネージャである Basil Dewhurst は、オーストラリアの様々なリポジトリに存在する資料への検索インターフェースを提供する ARROW 発見サービスのマネージャでもある。彼は、ピープル・オーストラリアの成果が ARROW やその他のサービスで使用され、個々の研究者の研究成果に対する検索精度が改善されることを期待している。

参考資料

ピープル・オーストラリアの概要:

<http://www.nla.gov.au/initiatives/peopleaustralia/index.html>

実現可能性調査:

<http://www.nla.gov.au/initiatives/peopleaustralia/PeopleAustraliaFeasibilityStudyWebsite.doc>

Gatenby, P., 'Reaching new audiences: the People Australia and Picture Australia projects at the National Library of Australia', (2007年8月ダーバンで開催されたIFLA会議に提出された論文):

<http://www.ifla.org/IV/ifla73/papers/147-Gatenby-en.pdf>

ニュージーランド電子テキストセンター

実体典拠ツールセット (EATS: Entity Authority Tool Set)

タイプ

ニュージーランド電子テキストセンター所蔵のテキストに表現されている実体に関する情報を記録・管理するための Web アプリケーション。

目的

ニュージーランド電子テキストセンターに所蔵されているニュージーランドおよび太平洋諸島のテキストに表現されている実体に永続的識別子を与え、さらに、これらの実体を他のシステムに存在する識別子にリンク付けること。

方法

実体とそれらの関連に関するデータ（実体のタイプ、それに結びついた名称、存在年月日など）は PostgreSQL リレーショナルデータベースに格納される。再構成するための関連規則により、名称はその構成要素に分割される。実体には内部的な永続的識別子を与えられる。典拠データを EATS データベースにインポート・エクスポートするためのマークアップ言語 (EATSML) が開発されている。ニュージーランド電子テキストセンター所蔵のフルテキストで言及されている個人や組織、およびこれらの実体と言及されている他の著作やこれらの実体が作成した著作で言及されている個人や組織の間でリンクを作成することができる。現在、3 万件を超える実体が存在し、EATS アプリケーションで表現されている。

EATS は典拠レコードの機能要件概念モデルに適合している。

参考資料

ニュージーランド電子テキストセンター: <http://www.nzetc.org/>

Norrish, J., 'EATS: an Entity Authority Tool Set', ヴィクトリア大学ウェリントン校図書館 <http://researcharchive.vuw.ac.nz/handle/10063/220> から入手できる。

OCLC

WorldCat Identities

タイプ

WorldCat Identities は、協力機関の図書館資料を対象とする OCLC の WorldCat 総合目録に見られる著者の概要である。著者には個人と団体の両者が含まれ、これら実体による著作および実体に関する著作、出版年表、米国議会図書館名称典拠ファイル (LCNAF) の記入へのリンク、(もし存在すれば) 別の形の名称、ブックカバー、Wikipedia へのリンクが示されている。

目的

元々の目的は、WorldCat に見られる著者の概要と目録への経路を提供することであったが、現在では、このサービスがそれ以上の幅広い利用の可能性を持っていることを OCLC は認識している。

方法

データは、1,500 万から 2,100 万の個人名を持つ WorldCat 総合目録から採取されている。WorldCat は学位論文を含んでいるが、その著者名は論文がモノグラフとして出版されるまで典拠データとして作成されない。従って、これらの名前は LCNAF では見られない場合がある。同様に、記録史料とインターネットリソースの作成者も WorldCat Identities では見られるが、LCNAF では見られない場合がある。

WorldCat Identities は、LCNAF がサポートしていない非ラテン文字をサポートしている。中国、日本、朝鮮の名称はラテン文字に翻字される際にその一意性が失われる可能性がある。従って、オリジナル形のサポートはこれらの名称のあいまいさを減少させる。WorldCat Identities には、およそ 50 万件の非ラテン文字の名称が存在する。

WorldCat Identities は、団体に関して機関レベル (オックスフォード大学など) の情報を持っているが、学科やスクールといった下位層レベルの情報は持っていない。WorldCat は 3,000 万件の論文レベルのレコードを持っているが、これらの著者の名称は WorldCat Identities の情報源には含まれていない。

利用者のフィードバック

データの間違い (例えば、複数の個人からなるグループの著作が個人の名前の下にある) に気付いた場合、利用者は OCLC にメールで通知することができるが、現在のところ、この種の報告をそのインターフェースから行うことはできない。

責任

WorldCat Identities は OCLC の内部プロジェクトである。

参考資料

<http://orlabs.oclc.org/Identities/> で公開されているベータサービスは、本年末にはより恒久的な場所に移動される予定である。

仮想的国際典拠ファイル (VIAF: Virtual International Authority File)

タイプ

VIAF は、各国の既存の名称典拠ファイルを接続するプロジェクトである。現在は、LCNAF (米国議会図書館名称典拠ファイル) とドイツ国立図書館の PND (Personennormdatei) を対象としている。

目的

このプロジェクトは、様々な国の名称典拠ファイルのデータを付き合わせるにより仮想的な国際名称典拠ファイルを作成することをめざして作業を行っている。これには名称の標準的な形に見られる地域ごとの変異がリンク付けされるという効果があり、様々な標準を使用しているシステムから関連するレコードを取り出すことが可能になると思われる。

方法

書誌レコードからデータフィールドを抜き出し、個人の名称典拠ファイルと結合し、高度化された名称典拠ファイルを作成する。議会図書館とドイツ図書館で作成されたファイルは比較され、データが明確に一致した場合はリンク付けられる。

VIAF サービスは今年末に開始される予定である。

責任

現在のところ、VIAF は OCLC、議会図書館、ドイツ図書館によるプロジェクトである。フランス国立図書館がプロジェクトに参加する予定であり、将来はこのコンソーシアムが他の国立図書館にも拡大される可能性がある。

参考資料

プロジェクトの概要: <http://www.oclc.org/research/projects/viaf/>

IraLIS

国際著者レジストリ：科学者識別リンク

(International Registry for Authors: Links to Identify Scientists)

タイプ

IraLIS は、図書館・情報分野における約 400 名のラテンアメリカ系著者の名前のレジストリである。

目的

IraLISの目的は、図書館学、ドキュメンテーション、アーカイビングに関する著作を発表しているすべての著者の名前の典拠レジストリを作成することである。これは、通常複合形であり、英語の雑誌でたびたび好ましくない形で簡略化される（通常、好ましい形である著者の父親の姓が使われず、母親の姓が使われる）というラテンアメリカ系著者の名前に特有の問題に対応して作成された。このレジストリは他のサービスにも公開されるので、個人の名前を標準化することができる。そのサービスには、情報専門家人名録 (<http://www.directorioexit.info/>)、図書館・情報学のためのE-LISリポジトリ (<http://eprints.rclis.org/>)、ThinkEPI共同Webサイト (<http://www.thinkepi.net/>)、オンラインジャーナル『El Profesional de la Información』 (<http://www.elprofesionaldelainformacion.com/>) がある。

方法

IraLIS は、著者に完全な形の名前をまず登録し、次に好ましい形を選ぶよう求めている。この好ましい形は典拠となり、MADS を使って識別子や異なる形の名前と関連付けられる。著者には好ましい形の名前を常に使用することが推奨される。

責任

IraLISはコミュニティ主導のプロジェクト(<http://www.iralis.org/?q=node/4>)であるが、Webサイトには次の個人名が載っている： Tomàs Baiget、カタルニア統計研究所；Antonia Ferrer、バレンシア工科大学視聴覚コミュニケーション、ドキュメンテーションおよび芸術史学科；Josep-Manuel Rodríguez-Gairín、バルセロナ大学教授、E-LISプログラムおよびKronosdoc（図書館のためのサービス）管理者；Imma Subirats-Coll、FAO研究者および図書館学、ドキュメンテーション、アーカイビングのためのOAIリポジトリE-LISのコーディネーター

参考資料

IraLIS Webサイト：<http://www.iralis.org/>

ONESAC

ONE 共有典拠コントロール (ONE Shared Authority Control)

タイプ

ONESAC は数多くの典拠ファイルを対象とする横断検索とアクセスを提供するプロトタイプサービスであった。

目的

ONESAC の目的は、作業の重複を避けるために目録作業に使用する様々な情報源のデータを統合することであった。

方法

MARCXML 名称典拠ファイルを含むデータ情報源は自動的に RDF トリプルに変換され、SDORE (Semantic Digital Objects Repository) と呼ばれる RDF 情報管理システムに格納された。システム中のオブジェクトには、汎用一意識別子 (UUID) が付与された。異なるボキャブラリ間の対応付けは Web オントロジー言語 (OWL) を使って表現された。

結合されたレコードを対象とする検索機能が Web インターフェースで提供され、目録担当者は典拠レコードをオリジナルフォーマットで見ることができた。

責任

ONESAC は、BIBSYS、英国図書館、イタリア国立図書館、フィンランド国立図書館、米国議会図書館、LIBRIS、Portia I/S、スウェーデン王立図書館、国連食糧農業機関 (FAO) が参加するコンソーシアムである ONE 協会の助成を受けた。プロジェクトは 2004 年から 2005 年まで実施された。

参考資料

Portia I/S, 'RDF and ONESAC shared authority control', white paper
<http://www.portia.dk/pubs/ONEX/Misc/ONESAC/RDFandONESAC.pdf> で入手できる。

RePEc

RePEc 著者サービス

タイプ

経済学分野の著者名のレジストリ。

目的

著者とその研究成果に結びつけ、経済学分野の研究論文リポジトリ RePEc に所蔵されている論文のダウンロードと引用に関する情報を研究者が受け取ることができるようにすること。

方法

著者は、RePEc 著者サービスに登録するよう求められる。著者は、メールアドレス（これはユーザ名となる）、様々な形の名前、所属機関、連絡先などの情報を提供する。登録の過程で著者にはユニークなハンドル（著者名と重要な日付の組み合わせで、登録時に選択される）が与えられる。

サービスには 15,000 人を超える著者が登録されている。

関連サービスのEDIRC (Economics Departments, Institutes and Research Centers) は、1万を超える経済学部および経済学関連機関をリストアップしている。これは、RePEc著者サービスに所属機関リストを提供する。各機関にはユニークな識別子が割り当てられている (<http://edirc.repec.org/handle.html>)。

同僚が登録されていない場合、著者は同僚に代わって登録を開始することができる。

責任

RePEcの責任は、主にボランティアから成る広く分散したチームが負っている (<http://ideas.repec.org/team.html>)。RePEc著者サービスは、現在ロング・アイランド大学のThomas Krichelにより管理されている。一方、コネティカット大学のChristian ZimmermanがEDIRCサービスを管理している。

参考資料

RePEc著者サービス: <http://authors.repec.org/about>

Cruz, J. M. B., M. J. R. Klink, and T. Krichel (2000), "Personal data in a large digital library", *Proceedings of the 4th European Conference on Research and Advanced*

Technology for Digital Libraries, 127,
<http://openlib.org/home/krichel/phoenix.a4.pdf> で入手できる。

EDIRC: <http://edirc.repec.org/>

商用システム

エルゼビア

Scopus 著者 ID

タイプ

論文、Web 情報資源、会議録に関する情報を提供するエルゼビアの商品 Scopus の一部。

目的

著者名のあいまいさをなくし、ある特定の著者のすべてのアイテムを検索するため。

方法

方法は Web of Knowledge（以下を参照）の著者識別システム（DAIS）と同じであり、著者名がその所属、住所、主題分野、情報源のタイトル、引用形の出版日付、共著者に基づいてグループ化される。利用可能な場合は、姓とイニシャルだけでなく、著者のフルネームを使用する。

利用者は、著者検索インターフェースで姓と名（またはイニシャル）、所属、大まかな主題分野（生命科学、物理科学、保健科学、社会科学）を指定することができる。同じ著者のレコードがアルゴリズムに従ってグループ化されていない場合、利用者は（Scopus に登録されていることを示すか、Athens ID を示すことにより）このインターフェースを使ってグループ化を提案することができる。2006 年末までに 2,000 件を超える意見を受け付けており、その大部分は論文を一人の著者にグループ化する意見であった。

参考資料

概要：

http://help.scopus.com/Robo/BIN/Robo.dll?mgr=agm&tpc=%2Frobo%2Fprojects%2Fscheip%2Fh_autsrch_intro.htm&project=scheip&wnd=scheip%7CScopusHelp&agt=wsm&ctxid=scopus%2Fresults%2FauthorNamesList.url

ProQuest

ScholarUniverse

タイプ

世界中の 70 から 80 機関の教員のプロフィールで、所属、出版物、連絡先、獲得助成金をリスト化している。

目的

ScholarUniverse は、専門家の人名録である。ホームページでは「出版社、会社、ジャーナリスト、そして、外部専門家を求めるすべての組織にとっての基本的情報源である」と述べている。

方法

ScholarUniverse が提供するプロフィールは、大学の支援を受けた編集チームが大学の Web サイトにある情報を利用して作成する。研究者には自分のプロフィールであることを主張することが奨励されており、登録をすると保存されている情報を更新することができる。また、リストにない研究者を知らせる「学者推薦」サービスも存在する。

基本的な情報はすべての人に無料で公開されるが、より詳しい情報はサービスを購読しないとアクセスできない。

参考資料

<http://www.scholaruniverse.com/>

Thomson-ISI

Web of Knowledge - 著者識別システム (DAIS: Distinct Author Identification System)

タイプ

Author Finder は、論文、会議録、Web 情報資源に関する情報へのアクセスを提供する商用サービス、ISI Web of Knowledge の一部であり、Web of Science の商品である。

目的

Author Finder は、利用者が論文を検索する前にその著者をより正確に識別することを可能にする。そして、論文を見つけた後は、著者名のリンクを辿ることにより著者のその他の論文にアクセスすることができる。

方法

Web of Science に蓄積されたデータを使い、所属機関、研究分野、著者により引用された論文に基づいて、著者名の元に論文をまとめる。

Author Finder による検索は、姓と 1 つ以上のイニシャルを基本として、次いで大まかな主題分野（人文科学、生命科学および生物医学、学際的科学・技術、物理科学、社会科学）と所属機関で絞り込むことができる。ただし、すべての著者が上記のアルゴリズムでまとめられているわけではない。

オンライン質問票を使うことにより、Author Finder 上で意見を提供する機会が与えられているが、このサービスと同等な Scopus に見られる異なる著者をグループ化するためのオプションに比べて洗練されていない。質問票には 12 の質問があり、ほとんどが必須であり、質問は 1 ページに 1 つであるので、多くの利用者はやる気を無くすと思われる。Author Sets ページ上で意見を述べるためには、利用者は Web of Science に登録する必要があり、これも障壁の 1 つである。

参考資料

概要: <http://scientific.thomson.com/support/faq/wok3new/dais/>

Researcher ID

タイプ

ISI Web of Knowledge を使用する研究者の登録システム。

目的

研究者が自らを一意に識別し、この識別子と発表した研究成果や別の形の名前を関連付けることを可能にすること。

方法

現在（2008年2月）、登録システムはすべての研究者に公開されているわけではない。登録は招待制であり、登録者（または所属機関）が ISI Web of Knowledge の購読者でなければならぬ。研究者は情報を公開するか否かを選択することができる。研究者は、自分の識別子を自分が書いた出版物に関連付けることができる。また、このサービスは、研究者が自分のものであると確認した著作の引用データを生成する機能を提供する。

『Information Today』誌の2008年1月21日号に掲載されたBarbara Quintの記事¹で述べられているように、このサービスに対するThomson Scientific社の計画は意欲的である。

将来の拡張

サービスは1月の最初の数週間公開された。商品開発担当副社長の James Pringle によれば、将来スポンサーとなる機関がまもなく、おそらくここ数ヶ月のうちに ResearcherID.com に加わる予定である。彼は、最初のスポンサー申請者として Thomson Scientific 社と ResearcherID の関係について次のように話した。「他のスポンサーには大学や出版社、協会が考えられます。これらの機関は、プロフィールを作成したいと考える研究者のためのエントリーポイントとして機能するでしょう。これは検証と信頼の問題にとって重要です。私たちは信頼できる他の環境に統合できるようにすべて Web サービスアーキテクチャを使って作成しました。Web of Knowledge はその最初の例に過ぎません。」Pringle は、ResearcherID.com にはすぐにでも 10 数校の大学の参加があると思い描いていた。また、会社も出版社などが資金提供に興味も持つと考えていた。

Pringle によれば、現在の ResearcherID.com は最初のリリースに過ぎない。「次のリリースで私たちはソーシャルネットワークやブログ、その他のユーザ作成コンテンツへのリンクを作成する機能を追加する予定です。これは私たちが他の種類の共同作業やマッシュアップへ移行する際の土台に過ぎません。」Thomson 社は、フルテキストリンクのために DOI を追加するかもしれない。Pringle は次のように示唆した。「私たちは、研究コミュニティが本当に欲しいものを知るためにソーシャルネットワーキングやその他の統合ポイントをテストして、これに対する研究コミュニティの動向を注目しています。ただし、私たちは安定した土台と永続的リンクから作業を行っています。このまさしく最初の 1.0 リリースは、将来は木へと生長する種に過ぎません。」

¹ <http://newsbreaks.infotoday.com/nbReader.asp?ArticleId=40664>

参考資料

このサービスに関するプレスリリース:

<http://scientific.thomson.com/press/2008/8429910/>

ResearcherIDホームページ: <http://www.researcherid.com/>

その他の関連する活動

EPrints

タイプ

リポジトリソフトウェアの著者のあいまい性除去。

目的

資料を投稿する著者に自動補完オプションを提供し、さらに、システム内で著者を明確に識別し、論文の引用インパクトの分析を可能にすること。

方法

EPrints ソフトウェアの新バージョン (EPrints 3) は名称典拠コンポーネントを持っている。これは、リポジトリ内の既存のメタデータ、独立したローカルの名称典拠ファイル、あるいは外部ファイルから作成することができる。

参考資料

EPrints 3 の機能概要: <http://www.eprints.org/software/v3/>

ScientificCommons

タイプ

世界中のオープンアーカイブリポジトリから収集したメタデータのアグリゲーションサービス。個人名が同定され、様々なリポジトリに存在する著作や共著者と関連付けられている。

目的

このベータ版のサービスは多くのオープンアーカイブプロバイダーに存在する資料の発見を可能にすることを目的としている。メタデータは OAI-PMH を使って集められ、利用可能な資料についてはフルテキストもインデックス化される。

方法

英国のリポジトリ 92 を含む、様々な種類の 908 のリポジトリがインデックス化されている。研究成果のリポジトリだけでなく文化財資料のリポジトリも含んでいる。著者名は、その名前の著者と共著者による著作と関連付けられている。同名の別人が区別されているようには見えないので、一般的な名前の場合（Anne Smith など）は、複数の人の著作が一人の著者に関連付けられる結果になる可能性がある。

現在、ScientificCommons.org はおよそ 1,300 万件の学術出版物をインデックス化しており、このデータから 600 万件の著者名の抽出に成功しています（2007 年 1 月）。²

Web サイトは次のようにも述べている：

さらに、ScientificCommons.org は組織化サービスを提供する予定です。すべての研究者は、ScientificCommons.org 上で直接自らの出版物を組織化し、自身の研究者プロフィールを作成することができます。

この機能はまだ公開されておらず、ScientificCommons のサービス状況も Web サイトからは明らかではない。ただし、このサイトで OAI コンテンツプロバイダーを新規登録することは依然として可能である。

責任

ScientificCommons はスイスのザンクト・ガレン大学メディア・コミュニケーション管理研究所により運営されている。

² <http://en.scientificcommons.org/about>

参考資料

ScientificCommonsのWebサイト: <http://en.scientificcommons.org/>

英国国立文書館

National Register of Archives (名称典拠ファイル)

タイプ

記録史料の作成者の名称典拠ファイル。個人と組織の両者を含む。

目的

National Register of Archives (NRA) は、英国（一部海外を含む）における記録史料コレクションの所蔵館に関する要約情報へのアクセスを提供する。NRA は 1945 年に構築された。NRA へのアクセスは名称索引を介して常に利用可能であり、1995 年からオンラインで公開されている。本年、名称データの情報は記録史料典拠レコードの国際標準 (ISAAR) に準拠するために再構築された。これにより、名称記入は関連資料や詳細な歴史注記へのリンクを持ち、NRA 単独に比べてより広範囲の情報へのアクセスを提供することができるようになった。

方法

NRA 名称典拠ファイルは SQL Server 2000 データベースに格納されている。可能な限りドロップダウンリストが使用されているデータ作成用インターフェースを NRA 職員は利用することができる。データは ISAAR に従って構造化されている。処理はまったくの手作業で時間のかかるものであり、現時点では、外部の機関が個人に関する情報やファイルを自動的に追加・更新する簡単な方法は存在しない。国立文書館は他の文書館から XML 形式で提供されるデータを追加することを検討している。英国の多くの文書館で使用されている CALM システムが ISSAR に基づく XML 出力機能を提供しているからである（ただし、EAC フォーマットは使用していない）。

別の方法として、各レコードについている「あなたのアーカイブ」wiki へのリンクをたどり、wiki 上で情報を入力することにより、NRA に格納されている情報を拡張することが可能である。ISSAR 準拠の XML 形式の名称典拠情報を持つ機関は、NRA に含めるためにこれを国立文書館に提出することができる。名称典拠ファイルデータは、API (アプリケーション・プログラミング・インタフェース) 経由や他のサービスで利用できるような XML 形式では公開されておらず、Web インターフェースのみである。

NRA には 5 万件を超える個人名（大部分はほとんど最低限の典拠ファイルデータである）と 96,000 件を超える組織のデータ（内、239 が大学）が存在する。

注記

名称プロジェクトが対象とする名称と重なる部分は小さいと思われるが、必要であれば、名称プロジェクトでデータを利用できると思われる。

参考資料

Warner, A., 'The National Register of Archives, developing into a Name Authority File database' , *Recordkeeping Magazine* (Summer 2007)

<http://www.nationalarchives.gov.uk/documents/recordkeepingaug-07.pdf>

データ情報源候補

EthOS

タイプ

英国図書館における電子学位論文総合目録プロジェクト。

詳細

機関リポジトリに所蔵されている学位論文に関する情報がハーベストされ、英国図書館の中央拠点に所蔵されているデジタル化された学位論文に関する情報と共に提供される。学位論文のメタデータには、著者名、機関と部局（および主題標目）が含まれる。サービスは2008年前半に開始される予定である。

注記

名称プロジェクトと多少データが重なる可能性が高い。

参考資料

EthOSのWebサイト: <http://www.ethos.ac.uk/>

Key Perspectives 社による EthOS プロジェクトの最終報告書:

<http://www.keyperspectives.co.uk/openaccessarchive/reports/ETHOS%20Report%20-%20final%20published%20version.pdf> (2006)

Russell, J., 'EthOSnet: building a UK e-thesis community' *Ariadne* 52 (July 2007)

<http://www.ariadne.ac.uk/issue52/russell/>

Je-S

タイプ

英国研究会議が助成金交付申請（およびその後の様々な処理）に使用しているサービス。Je-S は研究機関、部局、個々の研究者に関するデータを保有する。

詳細

研究会議は、Je-S の不可欠な部分である共通データリポジトリ（CDR: Common Data Repository）に Web サービス経由でリンクする。助成金交付申請には助成金交付の登録研究機関が指定されている必要があるため、CDR は機関に所属する個人の情報と共に機関やその関連部局に関する情報も保有している。研究者個人にはシステム上の自らの情報を最新に保つことが、研究機関には部局や職員の情報を保守することが期待されている。

Je-S/CDR に格納されるデータの種類は次のとおりである。

1. 研究機関（ユニーク ID と名称を含む）
 - 1b. 部局（ユニーク ID、名称、種類）
2. 個人（ユニーク ID、肩書、イニシャル、名、姓、（希望する宛名）、（希望する呼び名）、誕生日、性別、所属研究機関、所属部局、登録種別、メールアドレス、電話番号、WebURL、Fax 番号、住所、民族的出自、国籍、障害の有無/種類、現職とその開始日、部門、職務、専門分野、資格、（さらに連絡できない期間がまもなく追加される）。

システムには 400 を超える研究機関と 6 万人以上のアクティブな個人利用者アカウントが存在する。

注記

CDR データは、名称サービスが関心を持ちそうな個人の大部分をカバーするものと思われる。このデータをプロトタイプサービスで使用するための予備的会合が行われている。すべてのデータが名称サービスで必要になるわけではないが、ユニーク識別子と名称、様々な実体間のリンクは極めて興味深いものと思われる。

サービスの利用条件は、プライバシーと公開に関する節（3.3）において、次のように述べられている。

受託研究提案に含まれている以下の情報は通常一般公開することができる。

- ・ 主管研究機関の名称
- ・ 申請者の情報（肩書、名、イニシャル、姓、研究機関と部局）

参考資料

Je-sの利用条件: <https://je-s.rcuk.ac.uk/JESHANDBOOK/jesHelp.aspx?m=s&s=711>

Je-S における研究者情報:

<https://je-s.rcuk.ac.uk/JESHANDBOOK/jesHelp.aspx?m=s&s=54>

UK PubMed Central

助成金被交付者データベース

タイプ

生物医学研究助成金の助成金保有者の情報。

詳細

UK PubMed Central のデータベースは、助成団体、助成金識別子、代表研究者、プロジェクト名、代表研究者のメールアドレスに関する情報を保有している。

注記

このデータを名称プロトタイプサービスで再利用するには助成団体から許可を得る必要があると思われる。

UK PubMed Central データ

タイプ

生物医学および生命科学分野の雑誌文献のデジタルアーカイブ。

詳細

UK PubMed Central は、UKPMC 助成団体からの助成を受けた研究者が投稿した原稿に関する論文レベルのメタデータを保有している。メタデータは雑誌出版タグセット (Journal Publishing Tag Set, NLM DTD) フォーマットであり、著者名に関するデータを含んでいる。

参考資料

雑誌出版タグセット: <http://dtd.nlm.nih.gov/publishing/>

Zetoc

タイプ

雑誌論文の目次データ。

詳細

データは、「姓、イニシャル」という形の著者名および論文と雑誌のメタデータを含んでいる。著者の所属機関や所属部局は含んでいない。また、雑誌を DC 分類した情報を含んでいる（ただし、このデータは Zetoc の Web インターフェースでは検索できない）。

注記

データは英国図書館に帰属しているので、本プロジェクトで使用することに問題はないはずである。

参考資料

Zetocデータ種別: <http://zetoc.mimas.ac.uk/technical/mappings/etocdatamap.html>